



大阪市の 博物館 美術館情報

大阪市の博物館・美術館、“大阪ミュージアムズ”の魅力と情報をご紹介します。
Introducing the rich and varied Osaka Museums of history, culture, art and nature.

Osaka Museums 04

2017年
春号



携帯電話の利用マナーを心がけよう。

(3面に紹介記事あります)

大阪市立自然史博物館は行事がいっぱい!

九州への **スペシャル企画**
船旅プレゼント

美術館と博物館で使える **得クーポンも!**

大阪市立自然史博物館

特別展 2017年4月22日(土)~6月4日(日)

「石は地球のワンダー
~鉱物と化石に魅せられた2人のコレクション~」

地球が生み出した不思議な石に魅了された二人のコレクター。それぞれの鉱物コレクションと化石コレクションを中心に石の魅力を紹介します。



外に出て自然を観察しよう!



じっくり観察したら新発見だ!



オトナも子どもも
みんなおいでよ!
参加して楽しもう!



作って遊びながら学ぶ



館長インタビュー

「博物館は入り口」 “ホンモノ”を見て 自然の世界に入ってきてほしい

大阪市立自然史博物館
谷田 一三さん

“スーパーアマチュア”と支えあって
世界に誇れる展示を創ってきました

大阪市の博物館である以上、「大阪の自然、地元の歴史」を見せられるよう意識しています。正面玄関前で出迎えているマッコウクジラとナガスクジラの骨格標本も、大阪湾に漂着したクジラですし、4月から開催する特別展「石は地球のワンダー ～鉱物と化石に魅せられた2人のコレクション～」では、大阪の泉南地域から四国までつながっている和泉層群（白亜紀）から見つかったアンモナイトなどの化石を数多く展示する予定です。私が提案した企画やタイトルは落選しましたが（笑）、ひとえに『石』と言っても魅惑的な鉱石や歴史を知ることができる化石、またその両面を持ち合わせた琥珀化石など色々な石がありますので、必ず楽しんでもらえると思っています。

当館は、古くから知識やコレクションが豊富なスーパーアマチュアと呼ばれる人たちに支えられてきました。スーパーアマチュアの集めたタイプ標本（※）を含めた標本は当館の収蔵品として残され、世界に誇れる展示を可能にしました。さらに先人のスーパーアマチュアが立ち上げた研究会などは知の遺産となり、指導を受けた多くの方々も今も当館を支えています。先頃開催しました「関西甲虫研究史展」でもスーパーアマチュアと連携した展示が実現しましたが、今後も支え合い、助け合っていくつもりです。

昔行っていた「探検」をいつか復活させたい

かつてはマイクロネシアなどに探検と言っても過言ではないような現地調査を行っていたことがあります。スポンサーの獲得や現地との共同研究体制などさまざまな条件が必要となりますが、また再び復活させたい思いがあります。海外でなくとも、国内、関西に絞っても紀伊半島などはまだまだ知られていないことがたくさんあります。先進的な研究も、そして地元大阪の研究も、どちらも積極的に進めたいと思っています。 ※模式標本や基準標本ともよばれ、種を定める基準となった標本のこと

ホンモノに触れられる

数少ないチャンスを提供したい

私自身小学生の頃、現在の自然史博物館の前身である自然科学博物館に行った思い出がありますが、ヒトデやカニといった海の動物に興味を持ちました。中学生の頃は二ホンザルを中心とした研究をやりたいとも思っていました。大学時代に実習で川に行ったのをきっかけに水生昆虫に魅了され、今に至っています。

自然史博物館の来館者は、幼児から小・中学生が多いのですが、今の時代なかなか野外に出かける機会も少なくなり、ホンモノに触れるチャンスが少ないと感じています。当館としては彼らにできるだけ多くのホンモノ（あるいは限りなくホンモノに近いもの）を見せたいと思っています。このため、自然の観察会やワークショップも1年間に200～300件ほど行っています。さらに、中高生向けの「ジュニア自然史クラブ」では年間通して勉強できるようになっていますし、普段見ることのできない収蔵庫を見てもらうバックヤードツアーの機会も年2、3回設けています。博物館でホンモノを知ってもらい、学芸員というその道のプロの話も聞いてもらって、生物や地学の世界に入ってきてほしいですね。

「担当学芸員による見どころ解説」



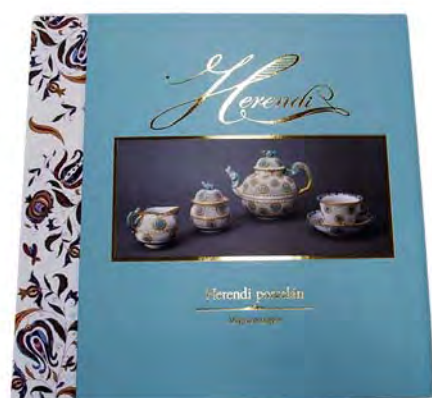
特別展「ハンガリーの名窯 ヘレンド」4月8日(土)～7月30日(日)の開催中に、展覧会を担当した学芸員の見どころ解説を行います。内容は展示を鑑賞していただく上で参考になるヘレンド窯の歴史や、主な作品の解説となります。もしかしたら、「ハンガリアン・ナショナル」文皿(写真)の文様が、今回の展覧会の図録やポスターのデザインに使われているなどの裏話も聞けるかもしれません。

色絵金彩「ハンガリアン・ナショナル」文皿
1896年頃 径：25.0cm 個人蔵

大阪市立東洋陶磁美術館

日時
4月15日(土)・29日(土・祝)、
5月13日(土)・27日(土)、
6月10日(土)・24日(土)、
7月8日(土)・22日(土)
いずれも14：00より約30分
(13：45開場)

場所
大阪市立東洋陶磁美術館
地下・講堂



図録「ヘレンド展」

「発掘現場の 現地説明会」

大阪文化財研究所では、遺跡の発掘調査で特に重要な成果や発見があった時には、現地で説明会を開催しています。調査担当者が、発見した遺構や遺物を丁寧に説明し、その発見の意義を分かりやすく解説します。

現地説明会の新聞等での発表は、3～4日前と直前になることが多いですが、それでも多くの歴史や考古学に興味ある方々に見学にお越しいただいています。発掘した実物を目の前にして、古代のロマンに浸れるいい機会にもなりますので、是非一度お越しください。

これまでに行った現地説明会の資料は、大阪文化財研究所ホームページで公開しています。

大阪 文化財 [検索](#)

大坂城の現地説明会・遺構の解説風景



大阪文化財研究所



難波宮の現地説明会風景



「大阪府」の「自然史」の「博物館」の「情報」

※当日、特別展入ロチケット
売場でお渡し下さい
※本券1枚につきお1人様
1回限り有効
※他の割引券との併用は
できません

大阪市立自然史博物館 Information

Osaka Museum of Natural History

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23

TEL 06-6697-6221 FAX 06-6697-6225

URL <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

開館時間 9:30~17:00(11~2月は16:30閉館)(入館は閉館の30分前まで)

休館日 月曜日(祝日・休日の場合は翌日)、年末年始

観覧料 大人300円 高大生200円 中学生以下無料 ※特別展は別料金



大阪市立自然史博物館は「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物の暮らし」「大阪の自然誌」をテーマとする自然史系の専門博物館。身近な生物の誕生や進化を体感しながら、自然の成り立ちとその関わり方を学ぶことができます。



携帯電話の利用マナーを心がけよう。

■ 色々な行事がお好みですか？

■ 大阪市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館では、みなさんの興味に合わせて参加いただけるように、場所や内容・対象など特徴あるさまざまな行事を開催しています。いくつかのおすすめ行事を紹介します。

身近な自然に親しみたい!
⇒長居植物園案内



博物館に隣接している長居植物園で行う観察会。毎月同じ場所ですること見えてくる季節の変化が感じられます。

植物研究室の学芸員による観察会は毎月1回第4土曜日、動物・昆虫の学芸員による観察会は、毎月1回第1土曜日に開催。

初めて親子で博物館の行事に参加する方にオススメ

野外の自然体験がしたい!
⇒やさしい自然かんさつ会



行事の中では初級向けです。レンゲ畑に行って生き物観察や草花遊び、夕方一斉にねぐらに戻ってくるツバメの観察、化石探しなど、さまざまな自然体験をして、自然に親しむ糸口をつかめる行事です。

学芸員の話をもっとじっくり聞きたい!
⇒自然史オープンセミナー



学芸員が行っている調査・研究成果のお話をします。毎月1回第2土曜日に開催。

特別展開催中には、外部講師をお招きして講演会として拡大開催することもあります。

イベント情報は、ホームページのトップからイベントのページに進んでね!



博物館の中で展示を楽しみたい!
⇒子どもワークショップ



ワークショップのスタッフと学芸員のお話を聞きながら、標本を見たり、工作したりしながら、展示の内容を理解できます。夏休み中は、特別展と関連したワークショップもしています。

そのほか、自然のこともっとくわしく知りたい方には「テーマ別自然観察会」、中高生向けの「ジュニア自然史クラブ」、野外では行えない分析的な観察や実習を行う「室内実習」、シンポジウムなどもあります。

行事の詳細情報は、自然史博物館のホームページをご覧ください。

■ 各館おすすめイベント

■ 『ハンズオン』

「ハンズオン」とは、自分の手を置く=触れてみるという意味で、展示に関わる内容を体験しながら学べます

■ 大阪歴史博物館

大阪歴史博物館が日替わりで開催している体験イベント「ハンズオン」。奈良時代の官人(役人など)の装束を着たり、日本の伝統的遊び「投扇興」や江戸時代の貨幣制度も学べる「両替商体験」など様々。海外からの来館者にも大人気のコーナーです。開催日や時間は、大阪歴史博物館ホームページ「ハンズオン」で確認してみてください。

なにわ 歴博 検索



■ 『触ったり聴いたりしに来てください』

■ 大阪市立美術館

特別展「木×仏像 飛鳥仏から円空へ ー日本の木彫仏1000年」

特別展「木×仏像 飛鳥仏から円空へ」では色々なイベントを企画しています。

まずは木に親しんでもらうため、色々な木の種類のサンプルを見たり、触ったり、臭いをかいだり体感してもらえるコーナーを予定しています。実際に仏像修理に関わる専門家の講演会も予定しており、工房で行われている修理のプロセスや近年の解剖学的な調査の成果など興味深い話を拝聴できると思います。

彫刻美術として、文化や歴史を考えるきっかけとして、サイエンスの対象として、どんな視点でもいいのでお越しいただいた方々、特に子どもたちに興味を持ってもらえる展示会にしたいと考えています。

何かに気づいて今後も美術館に足を運んでいただけることにつながれば幸いです。(学芸員 児島大輔さん)

重要文化財 木造 千手観音菩薩立像(部分)
平安時代 (11世紀) 滋賀県・阿弥陀寺



ご存知でし 知ると広がる、美術館

大阪文化財研究所 Information
Osaka City Cultural Properties Association
〒540-0006 大阪市中央区法門坂1-6-41
TEL 06-6943-6833 FAX 06-6920-2272
URL <http://www.occpa.or.jp/>

大阪文化財研究所

街角ミュージアム in 大阪 City

街角ミュージアムとは、大阪文化財研究所が協力して展示している、大阪市内に点在する小さな展示室のことです。現在大阪市内では区役所の展示コーナー、学校、企業のエントランスホールなどなど、30か所を越える小さな展示コーナーがあります。遺跡の発掘調査で出土した資料を、出土した場所やその周辺で展示することで、歴史をより身近に感じてもらえればと考えています。博物館とはひと味違った展示を是非見学にお出かけ下さい。今回は、そのうちの2か所を紹介します。

●阿倍野区民センター 1階ロビーの展示コーナー



歴史豊かな阿倍野区の中で、とくに阿倍野筋遺跡と阿倍寺跡の資料を展示しています。

阿倍野筋遺跡では、古墳時代前期の竪穴建物から出土した土師器（はじぎ）を中心に、縄文時代の石鏃（石製の矢じり）を展示しています。

住所 大阪市阿倍野区阿倍野筋 4-19-118

開館時間 9:30～21:30

休館日 年末年始(12/29～1/3)

アクセス 地下鉄谷町線「阿倍野」駅から南西へ100m



●船場ミッドキューブビル オシャレな展示コーナー

ビル街の一角、この付近は江戸時代の大阪城下町跡にあたる場所です。2009年に行った発掘調査では弥生時代末頃から現代に至るまで、長い間人々が暮らしていたことがわかりました。

見どころは、ビルの建築主と設計者がこだわった斬新な展示方法です。アクリルの板に遺物をはめ込み、宙に浮いたように見せており、ちょっと変わったオシャレな展示となっています。

住所 大阪市中央区北久宝寺町 3-1-6

開館時間 8:00～19:00

アクセス 地下鉄御堂筋線・中央線「本町」駅から南東へ350m、堺筋線・中央線「堺筋本町」駅から南西へ400m



▲街角ミュージアムの位置
詳しくは大阪文化財研究所のホームページ、「街角ミュージアム」からご覧ください。
<http://www.occpa.or.jp/>



大阪市立美術館の学芸員、
児島大輔さんに聞きました。

大阪市立美術館

学芸員に
聞くと

仏像の見方・感じ方～特別展「木×仏像」～

仏像製作には、石、金属、漆、粘土など様々な素材が使われてきましたが、日本で造られた仏像の圧倒的多数は木製です。木は金属や漆などに比べて手に入りやすい素材であるだけでなく、人間を遥かに超える寿命を持ち、巨大な樹木そのものが仏教伝来以前からの信仰対象であったことも仏像を形作る素材として相応しいと考えられました。

今回の特別展では仏像の素材としての「木」に着目し、日本人の木に対する観点や、どんな木をどんな方法で仏像にしてきたのかを、1000年の歴史を振り返りつつ探っていきます。担当学芸員の児島大輔さんによると「きっかけは、以前小学生の見学会で子供たちが『え、仏像って木で出来てるの?』と驚いて発した一言。日ごろから仏像の素材に注目して研究している私たちには当たり前なことが意外に知られていないのだと気づき、ならばそれを情報発信したらどうかと思い、取り組みました」とのこと。24点の重要文化財を含む約70点の展示作品のうち、約半数が大阪



◆重要文化財
木造 宝誌和尚立像(部分)
平安時代 京都・西住寺

の仏像です。「奈良や京都と違って空襲を受けた大阪の仏像の残存率は低く、あまり有名ではありませんが、奇跡的に残った優れた仏像が大阪にもあるということを知ってほしいです」。

仏像は本来「拝む」ものでまじまじ見ることは少ないですが、美術館で展示するからには、お寺やお堂では見られない細かいところまで仏像の姿を観察できるように、背中やお尻など色々な角度で見ることができるよう展示の工夫もされています。今回の見どころのひとつ「宝誌和尚立像」は顔が割れて中から別の顔が見えるような作りですが、「この姿の理由や背景は知らなくても、『何だこれは!』と、見た目のインパクトを楽しんでもらい、意味を知りたい後で解説を読むなりスタッフに聞くなりしてもらえればいいです」と児島さん。さらに、仏像の見方について児島さんは「とにかく昔の人がこれを初めて見た時の衝撃を追体験していただきたいというのが私たちの願いです。私たち学芸員とは全く違う切り口で見方もおられると思うので、新たな見方を教えていただければありがたいです」と語ってくれました。

特別展は、4月8日(土)から大阪市立美術館で開催されます。

(詳しくは6面を参照ください。)

大阪市立美術館 Information

Osaka City Museum of Fine Arts
〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82 (天王寺公園内)
TEL 06-6771-4874 FAX 06-6771-4856 URL <http://www.osaka-art-museum.jp/>
開館時間 9:30～17:00 (入館は閉館の30分前まで)
休館日 月曜日(祝日・休日の場合は翌平日)、展示替期間、年末年始 ※5/1は開館
観覧料 一般300円 高大生200円 中学生以下無料 ※特別展・特別陳列は別料金

※当日、美術館窓口でお渡し下さい
※本券1枚につきお1人様1回限り有効
※他の割引券との併用はできません

大阪市立美術館
特別展「木×仏像」
期間：4月8日(土)～6月4日(日)
料金：大人1,300円～1,200円
高大生1,100円～1,000円



4～7月のピックアップ展覧会

※¥の()内は、20名以上の団体料金 ※中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料(要証明)

大阪市立美術館

■特別展「木×仏像(きとぶつぞう)」

ー飛鳥仏から円空へ 日本の木彫仏1000年

飛鳥時代から江戸時代の円空まで、約70体の木彫仏を展示し、日本における木と仏像の関係とその歴史を総覧します。また、大阪のすぐれた仏像もあわせてご紹介することで、木から見る仏像の歴史とともに京都や奈良にはない大阪の仏像の魅力もご堪能いただけます。

○4月8日(土)～6月4日(日)

休月曜日(ただし5/1は開館)

¥一般1,300円(1,100円)、高大生1,100円(900円)

※大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です



特別展「木×仏像」2017.4/8土～6/4日 主催：大阪市立美術館・産経新聞社

■特別展「第63回全関西美術展」

○7月7日(金)～7月19日(水)

休会期中は7/13(木)のみ

¥一般700円(600円)、高大生500円(400円)

大阪市立東洋陶磁美術館

■特別展「ハンガリーの名窯 ヘレンド」

手作業による繊細な装飾や、東洋風の特徴ある文様で知られるハンガリーの名窯ヘレンド。その歴史と魅力をブダペスト国立工芸美術館、ヘレンド磁器美術館、ハンガリー国立博物館などが所蔵する約230点の作品により紹介します。

○4月8日(土)～7月30日(日)

休月曜日(ただし5/1、7/17は開館)、7/18(火)

¥一般1,200円(1,000円)、高大生700円(600円)

※大阪市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料



◆色絵金彩「ヴィクトリア」文ティーセット 1850年頃
カップ：口径13.0cm、菓子皿：口径21.0cm、ポット：高11.5cm ヘレンド磁器美術館蔵

大阪歴史博物館

■特別展「渡来人いずこより」

近畿地方やその周辺地域で出土した朝鮮半島関係の考古資料により、高句麗(こうくり)や新羅(しらぎ)、百濟(くだら)、加耶(かや)といった渡来人の「出身地」に

スポットを当て、古代の日本列島と朝鮮半島との交流をビジュアルに描きます。

○4月26日(水)～6月12日(月)

休火曜日(ただし、5/2は開館)

¥大人1,000円(900円) 高大生700円(630円)

※常設展との共通券 大人1,500円(1,440円) 高大生1,030円(990円)

※大阪市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料



■特集展示

「重要文化財指定記念 なにわの町人天文学者・間重富」

平成28年に国の重要文化財指定を受けた羽間文庫から、江戸時代の天文観測記録や間重富の生涯を伝える文書などをお披露目します。

○4月26日(水)～6月19日(月)

休火曜日(ただし、5/2は開館)

※常設展示観覧券でご覧いただけます

大人600円(540円)、高大生400円(360円)

※大阪市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料

■特集展示「大阪町めぐり 安治川と天保山」

○6月21日(水)～8月28日(月)

休火曜日(ただし、8/15は開館)

※常設展示観覧券でご覧いただけます

大人600円(540円)、高大生400円(360円)

※大阪市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料

■特別展「大相撲と日本刀」

○7月8日(土)～8月28日(月)

歴代の横綱が土俵入りの際に使った太刀など、大相撲ゆかりの日本刀と、化粧廻しや相撲絵など相撲関係資料を紹介します。あわせて、大阪歴史博物館所蔵の大阪相撲関係資料も展示し、大阪相撲の歴史についても紹介します。

大阪市立自然史博物館

■特別展「石は地球のワUNDER」

～鉱物と化石に魅せられた2人のコレクション～



地球が生み出した不思議な石に魅了された二人のコレクター。それぞれのコレクションを中心に、きれいな結晶を持つ鉱物、長い地球の歴史の中で生物の進化を教えてくれる化石の魅力を紹介。日本地質学会により選定された「47都道府県の石(岩石・鉱物・化石)」も同時開催します。

○4月22日(土)～6月4日(日)

休月曜日(ただし5/1は開館)

¥大人300円、高大生200円

※本館(常設展)とのセット券は、大人500円、高大生300円

※大阪市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料

■特別展「瀬戸内海の自然」(仮称)

○7月15日(土)～10月15日(日)

休月曜日(ただし、月曜日が休日の場合はその翌日。8/14は開館予定)

¥大人500円、高大生300円

※本館(常設展)とのセット券は、大人700円、高大生400円(予定)

※大阪市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料

■「メガ恐竜展2017-巨大化の謎にせまる-」

○7月25日(火)～9月3日(日)

休会期中無休

読売新聞社、テレビ大阪、ATCと共催

会場 大阪南港・ATCホール

〒559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10

大阪市立科学館でも

企画展「石は地球のワUNDER」を開催中

科学館と自然史博物館、2つ見ないと全部見たことにはならないね。

大阪市立科学館 <http://www.sci-museum.jp/>

■大阪市立科学館企画展

「石は地球のワUNDER
～鉱物と化石に魅せられた
2人のコレクション～」

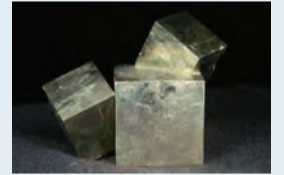
○3月14日(火)～6月4日(日)

休毎週月曜日(3/20、5/1は開館)、3/21(火)および臨時休館日<5/30(火)～6/1(木)>



◎東海大学出版部
方解石(北川鉱物コレクション)

自然史博物館のチケットほかを持参いただくと、お得な割引があるよ。



◎東海大学出版部
黄鉄鉱(北川鉱物コレクション)

大阪市立科学館展示場：

大人400円→320円、

高大生300円→240円、

中学生以下無料

科学館のチケットほかで自然史博物館の割引もあるよ。

詳しくはホームページで。

◆その他の大阪市の博物館等の情報はここから

大阪市立科学館 <http://www.sci-museum.jp/>

大阪城天守閣 <http://www.osakacastle.net/>

大阪くらしの今昔館 <http://konjyakukan.com/>

大阪新美術館建設準備室

<http://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu120/artrip/>

天王寺動物園 <http://www.jazga.or.jp/tennoji/>

大阪文化財研究所難波宮調査事務所

<http://www.occpa.or.jp/ikou/miyajimu/miyajimu.html>



クイズ de ミュージアム

※本紙のどこかにヒントがあります。

クイズの答えは、6月7日、「大阪ミュージアムズ」のwebサイトで発表します。
<http://www.ocmo.jp/museums/>



1. 大阪市立自然史博物館の正面玄関前で出迎えている骨格標本は何と何？
○○○○クジラと○○○クジラ

2. 大阪歴史博物館で定期開催している『ハンズオン』で体験できる日本の伝統的な遊びは？
○○○に挑戦！

3. 大阪文化財研究所が協力している大阪市内に点在する小さな展示室は？
○○ミュージアム

4. 「木×仏像」展に出展される仏像で、割れた顔から別の顔のぞく特徴がある仏像は？
○○○○立像

5. 大阪市立東洋陶磁美術館の2階ロビーにある台座に乗った陶器はどんな形をしている？
○形土器

クイズに答えて
応募してね♪



切り取ってハガキに貼り付けて下さい。コピーして貼り付けても、手書きでも可です。

<クイズのこたえ>

1. ○○○○クジラと○○○クジラ
2. ○○○に挑戦！
3. ○○ミュージアム
4. ○○○○立像
5. ○形土器

<アンケート>

- ①大阪ミュージアムズ（本紙）をどこで入手しましたか？
- ②本紙で紹介した博物館・美術館・研究所で、行ってみたいところはどこですか？
- ③本紙で紹介したイベントに参加してみたいものはどれですか？
- ④今後、紹介してほしい記事、内容はありますか？
- ⑤今号でおもしろかった記事はなんですか？

★プレゼントのタイプ(A~Bとイ~ニいずれか1つずつを○で囲んでください)
【船旅と専科プレゼント】 【招待券プレゼント】※第1期、2期締切のみ

- | | | |
|---|----------------------|-----------------|
| A さんふらわあで行く船の旅 | イ 「石は地球のワンダー」 | ロ 「木×仏像」 |
| B 「専科 パーフェクトオイルホイップ」
「専科 パーフェクトホイップ」セット | ハ 「渡来人 いずこより」 | ニ 「ヘレン」 |

住所 〒 _____

氏名 _____ 才 男・女

大阪発進 感動の船旅プレゼント

フェリーさんふらわあ

ペア1組2名様をフェリー「さんふらわあ」で行く九州 船の旅にご招待

A 船の旅 [大阪南港-別府港 または志布志港(鹿児島)]

ゆったりお寛ぎいただける「個室ファーストルーム」での船の旅をご満喫下さい。ペア1組2名様のご乗船(往復)と乗用車1台分をセットにしたご招待です。
※6月から11月までご利用いただけます。(ただし、お盆・割引除外期間を除く。)
※当選後、別府港または志布志港のいずれかの航路を選択し、事前にご予約ください。詳細はお送りする説明書などをご覧ください。

資生堂「専科 パーフェクトオイルホイップ」
「専科 パーフェクトホイップ」セットで20名様
仕事やプライベートで充実した毎日過ごす女性たちに「濃密スキンケア」を提供している「専科」シリーズ。
新発売の「パーフェクトオイルホイップ」は、オイルクレンジングなのに泡で出てくるメイク落としです。メイクをしっかり落とす洗浄力を備えながら、濃密な泡の心地よさを実現しました。
今回は洗顔料単品売上ナンバー1の「専科 パーフェクトホイップ」とセットにして20名様にプレゼントします。

◆お問い合わせ先 0120-81-4710(資生堂お客さま窓口)



【応募方法】 住所、氏名、年齢、性別、クイズの答えを記入の上、上記のアンケートにお答えいただき、ハガキでご応募ください。全問正解者の中から抽選で「船旅」か「資生堂 専科」をプレゼントします。5月19日まではダブルチャンスとして展示会の招待券をプレゼントします。上の解答用紙でご希望の商品をお選びの上、ご応募下さい。
当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
なお、本アンケートにより入手した個人情報は、プレゼントの発送およびアンケートの集計以外には一切使用いたしません。

【第3期締切】 2017年6月6日(火)消印有効
【応募先】 〒530-0001 大阪市北区梅田3-4-5
株毎日新聞大阪センター
「大阪ミュージアムズ」クイズ係

5月19日までのダブルチャンス! 展示会の招待券をプレゼント!

クイズとアンケートにお答えいただいた方から抽選で、p.6で紹介した特別展(㊶~㊸)の招待券を各館10組20名様にプレゼントいたします。当選者の発表は招待券の発送をもって代えさせていただきます。
なお、「石は地球のワンダー」(㊶)、「木×仏像」(㊷)、「渡来人いずこより」(㊸)は会期の都合上、第1期締め切りのみとさせていただきます。

【第1期締切】 ㊶㊷㊸ 4月19日(水)
【第2期締切】 ㊹ 5月19日(金)となります。



大阪文化財研究所 長居～住吉大社界隈ウォーキング map



～住吉街道を歩く～ 自然史博物館へお出かけの際は、住吉さんへの町歩きもどうぞ♪



推奨モデルコース全長約3km、見て歩いて約80分。コースの監修をした大阪文化財研究所の情報はコチラを↑



5 住吉大社

神功(じんぐう)皇后によって、住吉に祀られたと伝わる。航海の神、祓(はら)いの神、歌の神として古くからうやまわれる大社で、全国に約2300社ある住吉神社の総本社である。

本殿は「住吉造」といわれる神社建築の最古の様式の一つとされ、国宝建造物に指定されている。また、直列に配置された第一本宮から第三本宮と、並列に配置された第四本宮と第三本宮も国宝建造物に指定されている。現在の建物は文化7(1810)年に造営されたもので、20年ごとに遷宮されている。

周辺で行われた発掘調査では、古代の建物跡や土器などが見つかっている。



1 磯齒津路(しはつみち)

日本書紀の雄略記に、呉(くれ)の客人のために「磯齒津路」を通したと記されており、現在の長居公園通りの位置にあったと推定されている。磯齒津路は住吉津から平野区の喜連瓜破(きれうりわり)を經由し、大和を結ぶ古代の路と考えられている。

2 荘厳浄土寺

住吉神宮寺や津守寺(いずれも現在は廃寺)とともに住吉三大寺と呼ばれた。創建時期は不明だが、平安時代に津守国基により再興されたと伝わる。境内には創建当時のものと伝わる礎石が残されている。周囲で行われた発掘調査では、再興時の軒瓦や慶長11(1606)年の豊臣秀頼による改修時のものと思われる瓦などが出土している。



4 御田(おんだ)

この神田で収穫された稲は宮中の新嘗祭(いなめさい)に献じられ、大社の各神事のお供物とされている。記録によると、住道(すんじ)で収穫された米から造られた酒が難波宮の館(むろつみ)で外国使節に振舞われたとある。

御田植神事は古式ゆかしく執り行われており、国の重要無形民俗文化財に指定されている。



3 浅沢社(あさざわしゃ)

住吉大社の末社で、芸能や音曲の神として今も芸妓などの奉納が続く。万葉集に「住吉の浅沢小野のかきつばた 衣に摺りつけ着む日知らずも」という有名な歌がある。昔の港・住吉津があった場所とされ、細江川が運んだ土砂で埋まって湿地となり、杜若(かきつばた)が群生していたのであろう。

「おおさか上町台地の歴史散歩 -なにわの宮・北から南から-」(2014年)より引用して加筆